



# 熊本医療センターが担う 役割について

令和5年7月27日  
国立病院機構熊本医療センター  
院長 高橋 毅

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 当院の基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、良質で安全な医療を提供します。

### 当院の運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

当院の特徴 4機能のうち高度急性期が中心

### 当院の主な機能

救命救急センター（救急告示病院、病院群輪番制病院）、災害拠点病院（地域災害医療センター）、地域がん診療連携拠点病院、精神科救急医療施設、開放型病院、地域医療支援病院、へき地中核病院、臨床研修指定病院、臨床修練指定病院、エイズ拠点病院、骨髄移植実施施設、国際医療協力基幹施設、熊本県地域救急医療体制支援病院、臓器提供施設、地域医療研修センター

### 医療法承認病床数

総数 550床 うち一般病床500床、精神病床50床

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### 【24時間365日断らない救急医療】

県内における3次救急医療と、地域の医療機関からのご紹介に対し迅速で高度な救急医療を提供いたします。

#### 【身体合併症を中心とした精神科救急医療】

精神疾患をお持ちの患者さまの身体合併症に対応しています。また、自殺企図および自傷行為に対しても、リエゾンチームを中心にメンタルケアさせていただきます。

#### 【政策医療ネットワーク専門医療施設】

国の政策医療として、がん、循環器、精神、感覚器、血液・造血器の専門医療を提供しています。

#### 【新型コロナ患者対応】

重点医療機関として、地域の医療機関と連携を密にして、重症コロナ患者(専用病床4床確保)への医療を提供していきます。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### 【地域医療支援病院としての取り組み】

地域医療支援病院として、**救急医療の提供**及び**紹介患者に対する医療の提供**に引き続き取り組み、良質で安全な医療の提供を行っていくことで、地域に根差し、地域医療に貢献できる病院を目指していきます。

併せて、**医療機器の共同利用の実施**及び地域の**医療従事者に対する研修の実施**を更に勧めて、地域のかかりつけ医の支援に取り組んでいきます。

#### 参考

- ・ 地域医療研修センター利用者数 28,352名 (R4年度)  
※コロナ前 R元年度 約37,000名

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2022年(令和4年)	2025年(令和7年)	備考
高度急性期	500床	500床	
急性期			
回復期			
慢性期			
その他			
合計	500床	500床	

なお、精神病床として、別に50床有しておりますが、2023年、2025年での精神病床数の増減は考えておりません。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

- **救命救急センター、精神科救急医療施設、熊本県地域救急医療体制支援病院**として役目を担い、今後も全県下より24時間365日救急患者を受け入れてまいります。
- **熊本県防災消防ヘリコプター「ひばり」の支援病院**として365日フライトドクターが常駐し、集中治療を要する重篤な患者を受け入れてまいります。
- 救急からの入院患者数が全入院患者の半数近くを占め、満床状態が常態化していますが、早期の転院をさらに推進し、空床の確保に全力を注ぎます。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その3】

**2025年の病床機能見直しはございません。**

### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【②診療科の見直し】

	現時点 (2023年4月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、腎臓内科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、感染症内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、外科、頭頸部外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、小児外科、整形外科、形成外科、精神科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、放射線治療科 (34診療科)		
新設		総合診療科 (35診療科)	診療科の特定できない患者様の診療を行うため、院内標榜科として行っておりますが、医療法上での届出が現時点では出来ませんので、可能となった時点で届出を行う予定としております。
廃止			
変更・統合			



### 3 具体的な計画

#### (2) 数値目標

	現時点( R4年度平均)	2025年
①病床稼働率 (一般)	98.0	現状維持
②紹介率 (地域医療支援病院)	93.9%	現状維持
③逆紹介率 (地域医療支援病院)	146.8%	現状維持

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

高度急性期病床の空床確保に向けて、次のような取組みを行います。

- がん診療では、できるだけ低侵襲な**内視鏡手術**、家から通える**外来化学療法**、ピンポイントな**放射線治療**、さらにこれらの治療を組み合わせ、できるだけ患者さまが通院で治療を受けられるよう取組みます。
- 「**総合がん治療センター**」では、化学療法センター、がん相談支援センター、緩和ケアセンターが設置され、がん患者さまができるだけ外来で治療を受けられるようチームで支援してまいります。
- 「**日帰り手術**」を積極的に実施し、可能な限り外来で手術を受けられるよう支援してまいります。

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

医師の働き方改革の影響については、救急医療、緊急手術等多方面への影響が考えられるが、医師確保及び他職種へのタスクシフト、タスクシェア等により、対応してまいります。

特に医師確保については、構想区域の医療へ与える影響も大きいことから、引き続き、熊本大学と綿密な連携をとることで診療科の充実を図ってまいります。

上記の取組みにより、医師の時間外労働の削減に取り組む「長時間労働を行う医師に対する健康確保の枠組」についてA水準での運用をしていきます。

## 4 その他特記事項

### 【救急医療と空床確保】

- 今後も「**24時間365日、断らない救急医療**」をスローガンに、救急車・救急へりの受入れはもちろん、ご紹介いただいた患者さまへの、正確な診断と迅速な治療を心がけ、高度急性期病院としての責務を果たしてまいります。
- 令和3年3月に救急外来が拡張され、初療ゾーンが充実いたしました。初療で安定化された患者さまは、救急外来から直接、地域の2次救急医療機関へご紹介し、空床の確保に努めてまいります。
- 救命救急センターでは、病病連携をさらに強化し、回復期医療機関への早期転院を促進し、空床の確保に努めてまいります。